



和歌七部之抄

三休和歌

特別
イ 4
3163
88(7)



14
3163
88(7)

三體和歌

建仁二年三月廿一日



講師

元吉

讀師

定家朝臣

春 若 婦 々 々 々 々 々

吉野金指

秋 乃 々 々 々 々 々

細唐

冬 乃 々 々 々 々 々

遠野

此詩ハ常ノ事ト定メテ海ノ所ニ在リ一
一具ハ夏ノ水一部集四十二首其ハ非

院然為家初以大概註付侍先賢意趣還て
屬塵芥を

其 大馬歌治原謝定

馬之常世花のいもれ月をゆくもあけ其花
け歌の其のさうさくゆきんさうに余情わ
て流る月をまゝ花に越ちやしとるされり
其心さうさう結るまのほろぬまをさうさ
常世花のいもれ花かりいもるされり
月さうさ世かともあまー先きさうさけ世界

花さうさくさうに満是もあしとるさうさ
あゝぬ方さうさうと花のさうさうさ
事さうさうさうさうさうさうさうさ

其

多し夜の多路原 三秋の風は花柳のさうさうさ
是に其夜の涼 三秋の風は花柳のさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさ
てはさうさうさうさうさうさうさ
又さうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさ

と秋の風涼しき風吹く秋の風
あはれ秋の風吹く秋の風
あはれ秋の風吹く秋の風

か

去る秋の風吹く秋の風

去る秋の風吹く秋の風
去る秋の風吹く秋の風
去る秋の風吹く秋の風

秋の風吹く秋の風
秋の風吹く秋の風
秋の風吹く秋の風

秋の風吹く秋の風
秋の風吹く秋の風
秋の風吹く秋の風

か

秋の風吹く秋の風
秋の風吹く秋の風
秋の風吹く秋の風

あゝぬまをひびくはきとさわくまをたけの
よらうあゝはらうまうはらぬをらうま
よらう月をひびくとさわくまをたけの
よらう月をひびくとさわくまをたけの
よらう月をひびくとさわくまをたけの
よらう月をひびくとさわくまをたけの
よらう月をひびくとさわくまをたけの
よらう月をひびくとさわくまをたけの

たぐは長歌

まはるつらつらとまよきれあゝぬる
まはるつらつらとまよきれあゝぬる
まはるつらつらとまよきれあゝぬる
まはるつらつらとまよきれあゝぬる
まはるつらつらとまよきれあゝぬる

色をひびくはきとさわくまをたけの
よらうあゝはらうまうはらぬをらうま
よらう月をひびくとさわくまをたけの
よらう月をひびくとさわくまをたけの
よらう月をひびくとさわくまをたけの

あゝ侍や又脱詩云誰言春色自東到露
暖南校花始開け侍れんと打之
つらつらとまよきれあゝぬる
つらつらとまよきれあゝぬる
つらつらとまよきれあゝぬる
つらつらとまよきれあゝぬる
つらつらとまよきれあゝぬる
つらつらとまよきれあゝぬる
つらつらとまよきれあゝぬる

色をひびくはきとさわくまをたけの
よらうあゝはらうまうはらぬをらうま
よらう月をひびくとさわくまをたけの
よらう月をひびくとさわくまをたけの
よらう月をひびくとさわくまをたけの

三橋村
同好をきと後りいふように海におほいしき海
へんくちうと暮れはけありけうあり奇しき
ふしあるれといふよもあやういなりは純潔よめぬ
へんくちうといふよの字をなとあるよもいずか
わつよんといふよもわり

秋もや轉す。秋風あかきあゝぬお散原のた庭
をい河ぬむらうつらにせといひぬあおはら^くと
この秋風の友は河も打ちうらうらとせしとせしは
了ふと歌のらに萩原とさうらてあまうらやとあ
よ秋風の流あはくといふとあまうらうらとあらん

心城くあはらうらうらとあまうら秋は風あどあら
らあはらうらうらとあまうら秋は風あどあら
とくあはらうらうらとあまうら秋は風あどあら
あまうらうらうらとあまうら秋は風あどあら

秋風の流あはくといふとあまうらうらとあらん

秋はくちうといふよの字をなとあるよもいずか
わつよんといふよもわり
あまうらうらうらとあまうら秋は風あどあら
あまうらうらうらとあまうら秋は風あどあら
あまうらうらうらとあまうら秋は風あどあら

あつてはす——てふのうらうらうの——と勢
と来た氣のよき氣のよき——と氣をひいて
れは氣のよき——と氣をひいて
ははぬぬと——と氣をひいて
とさうとさうと氣をひいて
あつてはす——と氣をひいて
あつてはす——と氣をひいて
あつてはす——と氣をひいて

あつてはす——と氣をひいて
あつてはす——と氣をひいて
あつてはす——と氣をひいて

人かふとさうと氣をひいて
あつてはす——と氣をひいて
あつてはす——と氣をひいて
あつてはす——と氣をひいて
あつてはす——と氣をひいて
あつてはす——と氣をひいて
あつてはす——と氣をひいて

あつてはす——と氣をひいて
あつてはす——と氣をひいて
あつてはす——と氣をひいて
あつてはす——と氣をひいて
あつてはす——と氣をひいて
あつてはす——と氣をひいて
あつてはす——と氣をひいて

一しては...
ふの...
時...
や...

神の...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

藤原定家朝臣

花盛...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

五月...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

さしあけしはふかきつらぬみ流るる秋の夜も
中子時鳥のさうしやうしてつらぬみ大あすく
又はらひなれしはふかきつらぬみ

霜のよもあけおれぬ遠くはるかにすけりての光
小田のうねのつらぬみからさくた遠くはるかに
あして空むくれく月影もさぬと流るる水も
うらみおれぬの月影もさぬと遠くはるかに
霜のよもあけおれぬ遠くはるかに

はらひなれしはふかきつらぬみ
遠くはるかにすけりての光
小田のうねのつらぬみからさくた遠くはるかに
あして空むくれく月影もさぬと流るる水も
うらみおれぬの月影もさぬと遠くはるかに
霜のよもあけおれぬ遠くはるかに

人方ねそそりての光
小田のうねのつらぬみからさくた遠くはるかに
あして空むくれく月影もさぬと流るる水も
うらみおれぬの月影もさぬと遠くはるかに
霜のよもあけおれぬ遠くはるかに

あけおれぬのつらぬみからさくた遠くはるかに
あして空むくれく月影もさぬと流るる水も
うらみおれぬの月影もさぬと遠くはるかに
霜のよもあけおれぬ遠くはるかに

かゝる（い）かゝる

上総の海邊

梅の花散るひらひらと心久望れや井よりわら春のや風
わらひらひらと心久望れや井よりわら春のや風
是の花ちりやひく久方れは清き水もかきこ
まはるる花ちりやひく久方れは清き水もかきこ
まれば風と世一色よ吹くぬきと一色に
まれば風と世一色よ吹くぬきと一色に
くをよと吹くぬきと一色に吹くぬきと一色に
くをよと吹くぬきと一色に吹くぬきと一色に
あや

鳥羽の海邊の心久望れや井よりわら春のや風
前鳥のひらひらと心久望れや井よりわら春のや風
清き水もかきこく久方れは清き水もかきこ

あはれと心久望れや井よりわら春のや風
ハ○まれば風と世一色よ吹くぬきと一色に
あはれと心久望れや井よりわら春のや風
あはれと心久望れや井よりわら春のや風
あはれと心久望れや井よりわら春のや風
あはれと心久望れや井よりわら春のや風
あはれと心久望れや井よりわら春のや風

あはれと心久望れや井よりわら春のや風
是は春のや風と心久望れや井よりわら春のや風
あはれと心久望れや井よりわら春のや風
あはれと心久望れや井よりわら春のや風
あはれと心久望れや井よりわら春のや風
あはれと心久望れや井よりわら春のや風
あはれと心久望れや井よりわら春のや風
あはれと心久望れや井よりわら春のや風
あはれと心久望れや井よりわら春のや風

もろれ月りそきた時鳥の一都啼一柱のるを
そくいし彩る色もやと澄り今一色とを
わしよしよみし待りよま家澄りれ歌一相成
ふらうあういあもも月りあつる一色其草
有しよ

斬道とまよとくぬ月月を時ぬれや
月よいぬぬ時ぬよほくく作ははよ
彩の彩をのくくぬと秋風と振るふ
みよ月が時ぬよきくくくくくくくく
わつて彩揚れまよのく秋風のくぬま

遊ユ一かゆるまらぬ也世よこく約々の感
待り

い人の道れあうとくめつー思たは様言つ
みこころうて淋み一い心疾のくま言れよ
あうてい人の道れぬのくくくくくくく
れはくくくく淋一さうふくくくくくく
うと草よもぬくくくくくくくくくく
け歌せよいひくくくく一くくくくく
いよわい一いふくくくくくくくくく
言に絶ぬまよとくくくくくくくくく

夕陽の影

晴景歌

夕陽の影をば春風の花はまのくさしとてやとほそ
ひやうらうらうを感うりと清くさぬと案
情有りて面白きもさるれば花とてさう
くく清くあつとあまもよ長ゆる物と
こゆるさるる

夕陽の影をば春風の花はまのくさしとてやとほそ
お花の影をば春風の花はまのくさしとてやとほそ

夕陽の影をば春風の花はまのくさしとてやとほそ
お花の影をば春風の花はまのくさしとてやとほそ

夕陽の影をば春風の花はまのくさしとてやとほそ
お花の影をば春風の花はまのくさしとてやとほそ

くむ思ふなるは思ふれ切なるわさうり母世へん
としそりなきよ切の歌よく侍る人

猿衣子山曉れ別うり志ほきしとそむき誠世家

是を都とまき言家あつとつとつ能うらまひ
たの病もゆりう酒もく言誠世まてあり
たうよれ侍りけまえとつとつ子侍りく
くあしとくや再祝之れ歌のふふふふふふ
しとらう酒興れんくまんとあめしと務の
と長ゆるまらぬあり

是方沙ふせく侍流道と才え侍る
ゆくと三體の歌をくくくくくくくく
ととととととととととととととととととと
くも忘れくくくく謙愚眼れくくくく
一やしとくくくくくくくくくくくく
類とくくくくくくくくくくくくくく
才くくくくくくくくくくくくくく
一度に三體のくくくくくくくくくく
もくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく

